

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地理総合	[地歴]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	『高等学校 地理総合 ー世界を学び、地域をつくる』 (第一学習社) 『新詳高等地図 最新版』(帝国書院)
副教材	ベーシック地理総合 (リクルート)

科目目標
地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。

【評価の観点】 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

	考 査	単元名(考查範囲) 学習項目	学習内容
1 学期	期 末 考 査	第1編 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 球面上の世界と地図 (1)目的地への行き方 (2)地球上の位置 (3)世界の時差 (4)世界地図の見方・使い方 (5)地図から読み取る情報 (6)デジタル化された地図 (7)地理情報システムの活用	地球上の位置は緯度や経度で表すことができる。地球上の位置の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているのだろうか。また、時差は私たちの生活とどのように結び付いているのだろうか。 【評価の観点】 ①地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくとともに、利用しやすい工夫が現在まで続けられていることを理解する。 ①緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について理解している。 ②緯度・経度の基本的なしくみ、緯度の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ①時差のしくみ、時差が生活に与える影響について理解している。 ②時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③時差のしくみ、時差が生活に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ①球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について理解している。 ②球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③球体の地球と平面の地図、さまざまな地図投影法(図法)について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ①身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について理解している。 ②身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③身の回りの主題図やさまざまな一般図の表現方法や用途について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ①地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ②地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地理情報システム(GIS)のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
		2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 (1)国家の領域と国境	世界にはさまざまな国家がある。国家の領域や国境はどのように定まっているのだろうか。また、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのだろうか。 【評価の観点】 ①国境の種類、国家の領域、国家の主権について理解している。 ②国境の種類、国家の領域、国家の主権について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国境の種類、国家の領域、国家の主権について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

		(2)日本の領域とさまざまな領土問題	①日本の位置と領域，排他的経済水域の特徴，日本の領土をめぐる問題について理解している。 ②日本の位置と領域，排他的経済水域の特徴，日本の領土をめぐる問題について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③日本の位置と領域，排他的経済水域の特徴，日本の領土をめぐる問題について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
		(3)国家をこえた結びつき	①国際関係と紛争の変化，国連が果たす役割，経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解している。 ②国際関係と紛争の変化，国連が果たす役割，経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③国際関係と紛争の変化，国連が果たす役割，経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
		(4)交通機関の発達と縮小する世界	①世界を結ぶ航空交通の発達，貿易を支える海上交通の発達，陸上交通の発達と変化について理解している。 ②世界を結ぶ航空交通の発達，貿易を支える海上交通の発達，陸上交通の発達と変化について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③世界を結ぶ航空交通の発達，貿易を支える海上交通の発達，陸上交通の発達と変化について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
		(5)情報・通信で一体化する世界	①通信技術の発達と一体化する世界，情報通信技術の発達で変化する生活行動，情報通信技術が生み出す格差について理解している。 ②通信技術の発達と一体化する世界，情報通信技術の発達で変化する生活行動，情報通信技術が生み出す格差について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③通信技術の発達と一体化する世界，情報通信技術の発達で変化する生活行動，情報通信技術が生み出す格差について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
		(6)拡大する世界の貿易と物流	①暮らしを支える貿易，貿易の変化と国際分業の成立，自由化する世界の貿易について理解している。 ②暮らしを支える貿易，貿易の変化と国際分業の成立，自由化する世界の貿易について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③暮らしを支える貿易，貿易の変化と国際分業の成立，自由化する世界の貿易について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
		(7)グローバル化と人の移動による結びつき	①多様なアイデンティティに持つ世界の人々と共生していくために他者の文化を尊重し，自らの文化について理解している。 ②多様なアイデンティティに持つ世界の人々と共生していくために他者の文化を尊重し，自らの文化について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③多様なアイデンティティに持つ世界の人々と共生していくために，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		1学期の評価方法	・授業態度，パフォーマンス課題，定期考査
2学期	期末考査	第2編 国際理解と国際協力	地球上には，高く険しい山脈や広大な平原，深い谷などの多様な地形がある。人々はこうした地形とどのように関わり合っているのだろうか。そして，世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。
		1章 生活・文化の多様性と国際理解	【評価の観点】
		(1)世界の生活・文化を写真でつかもう	①地理的環境によって人々の生活様式の地域的差異が生じていることを理解する。 ②世界の生活・文化を示した写真を閲覧しながら，写真中の地理的環境を読み取ることができる。
		(2)人々の生活に彩りを与える気候	①気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響，気温のしくみと分布の特徴，風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響，降水のしくみと分布の特徴について理解している。 ②気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響，気温のしくみと分布の特徴，風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響，降水のしくみと分布の特徴について，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③気候(熱帯・乾燥帯・温帯・冷帯・寒帯)が生活に与える影響，気温のしくみと分布の特徴，風(大気大循環・季節風)のしくみと風が及ぼす生活への影響，降水のしくみと分布の特徴について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。
		(3)「衣」から見る世界	①自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり，世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて理解している。 ②自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり，世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて，多面的・多角的に考察し，表現している。 ③衣食住について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		(4)「食」から見る世界	
		(5)「住」から見る世界	

3 学期	学年末 考査	(6)暮らしを豊かにする産業	①資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 ②資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③資源、産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		(7)宗教と人々の暮らし	①宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて理解している。 ②宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
		(8)暮らしを楽しむための文化 (9)多様性に富んだ世界の人々との共生	①祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について理解している。 ②祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化について、主体的に追究しようとしている。
		第2編 国際理解と国際協力 2章 地球的課題と国際協力 1節 持続可能な社会を目指して (1)持続可能な開発目標 (SDGs) (2)地球的課題の地理的な側面	私たちが住む地球の各地では、人間の経済活動などにより、さまざまな地球環境問題が生じている。世界ではどのような地球環境問題がみられ、どのような取り組みが行われているのだろうか。
		SDGs 番号 13：気候変動に具体的な対策を 14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさを守ろう	【評価の観点】 ①地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて理解している。 ②地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球的課題の背景にある経済格差、地球的課題の解決に向けての取り組みや私たちにできることについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
		2節 すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて (1)貧困問題 (2)人口問題 (3)食料問題 (4)持続可能な水の利用 (5)健康・福祉問題 (6)教育・ジェンダー問題	現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーなどの問題解決のためにどのような取り組みが行われているのだろうか。
		SDGs 番号 1：貧困をなくそう 2：飢餓をゼロに 10：人や国の不平等をなくそう 16：平和と公正をすべてのひとに	【評価の観点】 ①世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題について知り、その解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ②世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③世界各地で見られる貧困、人口、食料、水資源、健康福祉、教育・ジェンダーについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。
		2学期の評価方法	・授業態度、パフォーマンス課題、定期考査
		第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災	世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結び付いている。日本の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。
		(1)地球規模で見る地形の姿と自然災害 (2)人々の暮らしを取りまく自然環境	【評価の観点】 ①世界の大地形、日本の地体構造、日本の気候について理解している。 ②日本の地体構造、日本の気候について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③世界の大地形、日本の地体構造、日本の気候の概観について、主体的に追究しようとしている。
		(3)変動帯の自然と防災 (4)湿潤地域の自然と防災	①地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について理解しており、地理的技能を身に付けている。 ②地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地震の種類と特徴、火山の分布・恩恵・災害の特徴、風水害の特徴、積雪による災害など、地域で異なる災害について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

	(5)私たちができる災害への備え	①自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて理解しており、地理的技能を身に付けている。 ②自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みや、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に見舞われた際になるべく減災できるような取り組みについて、協働しながら多面的・多角的に考察し、表現している。 ③自らが住む地域の防災について、自助・共助・公助、復旧・復興の取り組みについて、これまで学んだ対策を組み合わせるために必要な行動について、主体的に追究、解決しようとしている。
	3 学期の評価方法	・授業態度、パフォーマンス課題、定期考査

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。 【評価の対象】 定期考査・単元テスト	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 【評価の対象】 定期考査、プレゼンテーション	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。 【評価の対象】 レポート、パフォーマンス課題
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
【授業の受け方】 ①私の授業は「アクティブラーニング的な授業」であり、グループで討議等を行います。 ②授業中は「なぜ？（Why 思考）」を大切にすること。思考停止は授業を受けていないのと同じです。 ③社会参画していく上で、個々人で地理的諸課題の解決策を考えながら、これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。 【評価について】 ①知識・技能：定期考査 ②思考・判断・表現：定期考査、プレゼンテーション ③主体的に学習に取り組む態度：レポート、パフォーマンス課題 【ノート・プリントの書き方】 ノートは必要ありません。ファイルを準備します。メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り、整理しておきましょう。自分で考えたり、感じたり、疑問に思ったりしたことが大変重要です。 【勉強の進め方】 日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。		

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
歴史総合	[地理・歴史]

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校 新歴史総合 (第一学習社)
副教材	明解歴史総合図説 シンフ ォニア (帝国書院)

科目目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学期	考査	単元名 (考査範囲)	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	中間考査	第1章 近代化と私たち 1 18世紀のアジアの繁栄	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身につける。	○	○	○
	期末考査	2 工業化の進展と国民国家の建設 3 結びつく世界と日本の開国 4 帝国主義とアジア諸国の変容	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○	○	○
	課題考査	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身につける。	○	○	○
2学期						

3 学 期	中間 考 査	SDG ‘s 番号5・10：ジェンダー平等を実現しよう・人や国の不平等をなくそう ひとりの人間としての権利や自由を奪われた奴隷という存在は、様々な地域で見られる。19世紀から廃止の流れが広がったが差別という形で根強く残っている。このような事例をもとに現代においてどのような差別があり、私たちはどう行動していくべきかを考える。				
		2 経済危機と第二次世界大戦	・第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	○	○	○
		SDG ‘s 番号16：平和と公正をすべての人に 何らかの事情（政変，戦争，飢餓，疫病など）で生まれ育った国を離れて生活する移民について理解させる。ユダヤ人，南部イタリアの人々，日系移民，中国系移民の歴史から移民が移住先に求めたことを考察させる。また，今後増えていくであろう外国の人々といかに共生していくか考えさせる。				
	期末 考 査	3 第二次世界大戦後の世界と日本	・第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し，表現する。	○	○	○
	学 年 末 考 査	第3章 グローバル化と私たち	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国，冷戦下の地域紛争，先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理などを基に国際政治の変容を理解する。	○	○	○
		1 冷戦と植民地化・第三世界の台頭	・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携，計画経済とその波及，日本の高度経済成長などを基に，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。			
		2 世界秩序の変容と日本	・持続可能な社会の実現を視野に入れ，自ら主題を設定し，歴史的経緯を踏まえて，現代的な諸課題を理解する。	○	○	○
			・世界遺産に登録されている鹿児島県内の歴史的建造物や自然について，その世界遺産が持つ意義を調べ，歴史総合で学んだ内容との関連を意識して発表（プレゼンテーション）を行う。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。 【評価の対象】 単元テスト、考査、発表など	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。 【評価の対象】 単元テスト、考査、発表など	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身につけている。 【評価の対象】 単元テスト、考査、発表など
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
1 授業には集中して臨みましょう。授業者の発言もノートにメモを取りましょう。 2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。 3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。思考停止は授業を受けていないのと同じですよ。		

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
公共	必修

履修学科	総合学科
履修学年	第1学年
履修単位	3単位
教科書	高等学校公共 これからの社会について考える (数研出版)
副教材	ライブ！2023 公共，現代社会を考える (帝国書院)

科目目標
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期		巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち SDGs「5 ジェンダー平等を実現しよう」「16平和と公正をすべての人に」に関連	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解し、自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究する。 ・世界の文化や日本の文化について理解し、グローバル社会において、多文化尊重の姿勢を養う。また、世界の因習にも注目し、「許容できる文化」と「許容できない文化」の境界は何かを考察する。	○	○	○
		第1章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 SDGs「12 つくる責任つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」に関連	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの諸課題を、選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、追究する。	○	○	○

2 学期	単 元 テ ス ト (2回)	第2章 公共的な空間における基本 原理 第3章 ルールをつくり守る私たち	・人間の尊厳と平等，民主主義，自由・権利と責任・ 義務について理解し，民主社会に主体的に生きる人 間の在り方生き方について，思索を深める。 ・日本国憲法の基本原理と保障されている権利を 理解し，自らの生き方と権利を結びつけて考える。 ・日常の買い物や銀行のクレジットカードを巡る 身近な紛争状況を設定し，それを解決するためのル ール作りを体験する。 ・裁判員制度創設の目的を理解し，裁判によって国 民のどのような権利が守られているのかを考察す る。	○	○	○
	期 末 考 査	第4章 政治に参加する私たち	・模擬投票や模擬請願を体験し，地方自治や選挙の 仕組み，政党の役割を考察する。 ・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割 を理解し，現代の国際紛争の解決への筋道を考察す る。	○	○	○

3 学期	学 年 末 考 査	第5章 経済活動を行う私たち	・産業構造の変化や雇用・労働問題について理解 し，AIやITなどの先端技術が発展する中で，自 分の進路や職業選択について考察する。 ・市場経済のメカニズムや金融のしくみを理解す る。 ・財政のしくみや社会保障について理解し，租税と 社会保障の均衡を図る方策を考察する。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後 の授業内容 課題探究編 持続可能な社会づくりの主 体となる私たち	・さまざまな課題の中で，自己とのかかわりに注目 して主体的に課題を選択し，探究する。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し，選択・ 判断するための手掛かりとなる概念や 理論について理解するとともに，諸資 料から，倫理的主体などとして活動す るために必要となる情報を適切かつ効 果的に調べまとめる技能を身に付けて いる。 【評価の対象】 考査，確認テスト，レポート	現実社会の諸課題の解決に向けて， 選択・判断の手掛かりとなる考え方や 公共的な空間における基本的原理を 活用して，事実を基に多面的・多角的 に考察し公正に判断する力や，合意形 成や社会参画を視野に入れながら構 想したことを議論する力を身に付け ている。 【評価の対象】 考査，確認テスト，レポート，プレゼ ンテーション	よりよい社会の実現を視野に，現 代の諸課題を主体的に解決しようと する態度を養うとともに，多面的・多 角的な考察や深い理解を通して涵養 される，現代社会に生きる人間とし ての在り方生き方についての自覚 や，公共的な空間に生き国民主権を 担う公民として，自国を愛し，その平 和と繁栄を図ることや，各国が相互 に主権を尊重し，各国民が協力し合 うことの大切さについての自覚を深 めている。 【評価の対象】 確認テスト，レポート，プレゼンテー ション

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

確認テストや考査で結果が出せることが全てではありません。日々の授業の態度や取組を評価していきます。世の中のことに興味をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。表現方法はさまざまです。人前で自分の考えを発表できるようになってほしいところですが、それが苦手であれば、感想やレポートというかたちからスタートしましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
公共	必修

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校公共 これからの社会について考える (数研出版)
副教材	ライブ！2023 公共，現代社会を考える (帝国書院)

科目目標
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期		巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち SDGs「5 ジェンダー平等を実現しよう」「16平和と公正をすべての人に」に関連	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解し、自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究する。 ・世界の文化や日本の文化について理解し、グローバル社会において、多文化尊重の姿勢を養う。また、世界の因習にも注目し、「許容できる文化」と「許容できない文化」の境界は何かを考察する。	○	○	○
		第1章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 SDGs「12 つくる責任つかう責任」「13 気候変動に具体的な対策を」に関連	・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの諸課題を、選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、追究する。	○	○	○

2学期	単元テスト（2回）	第2章 公共的な空間における基本原理 第3章 ルールをつくり守る私たち	・人間の尊厳と平等，民主主義，自由・権利と責任・義務について理解し，民主社会に主体的に生きる人間の在り方生き方について，思索を深める。 ・日本国憲法の基本原理と保障されている権利を理解し，自らの生き方と権利を結びつけて考える。 ・日常の買い物や銀行のクレジットカードを巡る身近な紛争状況を設定し，それを解決するためのルール作りを体験する。 ・裁判員制度創設の目的を理解し，裁判によって国民のどのような権利が守られているのかを考察する。	○	○	○
	期末考査	第4章 政治に参加する私たち	・模擬投票や模擬請願を体験し，地方自治や選挙の仕組み，政党の役割を考察する。 ・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割を理解し，現代の国際紛争の解決への筋道を考察する。	○	○	○

3学期	学年末考査	第5章 経済活動を行う私たち	・産業構造の変化や雇用・労働問題について理解し，AIやITなどの先端技術が発展する中で，自分の進路や職業選択について考察する。 ・市場経済のメカニズムや金融のしくみを理解する。 ・財政のしくみや社会保障について理解し，租税と社会保障の均衡を図る方策を考察する。	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・さまざまな課題の中で，自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し，探究する。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 【評価の対象】 考査，確認テスト，レポート	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。 【評価の対象】 考査，確認テスト，レポート，プレゼンテーション	よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めている。 【評価の対象】 確認テスト，レポート，プレゼンテーション

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

確認テストや考査で結果が出せることが全てではありません。日々の授業の態度や取組を評価していきます。世の中のことに興味をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。表現方法はさまざまです。人前で自分の考えを発表できるようになってほしいところですが、それが苦手であれば、感想やレポートというかたちからスタートしましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
世界史探究	[地理・歴史]

履修学科	普通学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	詳説 世界史探究 (山川出版社)
副教材	世界史要点ノート (標準編) グローバルワイド世界史資料集 重要語句 Check List

科目目標
地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉えることを目指す。 (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	中間考査・期末考査	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 第1章 文明の成立古代文明の特質 1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明	・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。 ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕、牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○
		SDG's 番号5：ジェンダー平等を実現しよう 古代中国で行われた纏足を示すことで古代中国は極端な男尊女卑社会であったことを理解させる。また、ここから現代社会が抱える男女間不平等の問題について考察させる。				

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
2 学期	中間考査	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成	・秦、漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の国家の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。 ・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。			
		第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成				
		第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インドの古典文化とヒンドゥー教の成立 3 東南アジア世界の形成と展開	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、唐の政治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・南アジア、東南アジア、西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、宗教や文化の特色、周辺地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○

期末 考 査	第Ⅰ部	諸地域の歴史的特質の形成	・西アジア社会と地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教徒イスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。	○	○	○
	第4章	西アジアと地中海周辺の国家形成				
	1	イラン諸国家の興亡とイラン文明				
	2	ギリシア人の都市国家				
	3	ローマと地中海支配				
	4	キリスト教の成立と発展				
	5	東アジア文化圏の形成				
	第5章	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成				
	1	アラブの大征服とイスラーム政権の成立				
	2	ヨーロッパ世界の形成				
SDG ‘s 番号1：貧困をなくそう 古代ギリシア・ローマの歴史における奴隷制を理解させる。背景には戦争が絡んでいるが、現代社会の貧困戦争も原因となっているものが多い。古代ギリシア・ローマの奴隷制の歴史から「貧困とは何か?」、「皆がより良く生きていくためには?」について考察させる。						
SDG ‘s 番号10：人や国の不平等をなくそう イスラーム教はもともと「すべての人が平等である」ことを説いた宗教であった。現代においても拡大する貧富の格差が原因となってヨーロッパからI S I Lへ亡命する人々がいた。このような宗教、歴史からすべての人や国の平等を考えたイスラーム教という宗教について考え、現代社会が抱える不平等をいかに是正するか考察させる。						

3 学期	学年末考査	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	・西アジア社会の動向とアフリカ, アジアへのイスラームの伝播, ヨーロッパ封建社会とその展開, 宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に, 海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。	○	○	○
		第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向				
		1 イスラーム教の諸地域への伝播				
		2 西アジアの動向				
		第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	・諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因, 結果や影響, 事象相互の関連, 諸地域相互の関わりなどに着目し, 主題を設定し, 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き, アジア海域での交易の特徴, ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し, 表現する。			
		1 西ヨーロッパの封建社会とその展開				
		2 東ヨーロッパ世界の展開				
		3 西ヨーロッパ世界の変容				
		4 西ヨーロッパの中世文化				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について, 地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに, 諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いているか。 【評価の対象】 単元テスト, 考査, 発表など	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義, 特色などを, 時期や年代, 推移, 比較, 相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して, 概念などを活用して多面的・多角的に考察したり, 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や, 考察, 構想したことを効果的に説明したり, それらを基に議論したりする力が身に付いているか。 【評価の対象】 単元テスト, 考査, 発表など	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について, よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに, 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚, 我が国の歴史に対する愛情, 他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっているか。 【評価の対象】 単元テスト, 考査, 発表など
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
1 授業には集中して臨みましょう。授業者の発言もノートにメモを取りましょう。 2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。 3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。思考停止は授業を受けていないのと同じですよ。		

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地理探究	[地歴]

履修学科	普通科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	「新詳地理探究」(帝国書院) 「新詳高等地図」(帝国書院)
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院)

科目目標
1. 自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化の学習を通じて、現代世界を系統地理的な見方、考え方でとらえる方法を身に付ける
2. 地域性を多角的に考察していくことで、世界の諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる見方や方法を身に付ける。
3. 1・2を通して、現代世界・日本の諸課題について、地理的認識を深めさせ、主体的に行動する力や態度を養う。

【評価の観点】 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習内容
1学期	中間 考查	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形	地球表面には、地球規模の大地形や、河川が形成した小地形などのさまざまな地形がみられる。それぞれの地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わりを学ぶ。 【評価の観点】 ①地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解することができたか。 ②地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		2節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などの気候要素は地域によって異なるため、地球上の生態系はさまざまである。気候の違いは、どのような要因で生まれる。この要因により人々の生活にどのような影響を与えていることを学ぶ。 【評価の観点】 ①気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解することができたか。 ②気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③気候について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
	期末 考查	3節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	南北に細長い日本列島には、山地や平野、亜寒帯から亜熱帯にわたる気候など、多様な自然環境がみられる。日本の自然環境にはどのような特徴があり、その特徴は自然災害とどのように関係しているのだろうか。 【評価の観点】 ①日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解することができたか。 ②日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		4節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	地球上では、さまざまな環境問題が発生している。地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいのだろうか。 【評価の観点】 ①さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて理解することができたか。 ②さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		SDGs 番号 13：気候変動に具体的な対策を 14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさを守ろう	

2 学期	課 題 考 査	・ 1 学期の復習	・ 夏季課題より出題
	中 間 考 査	1節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	世界の農林水産業について、自然条件や社会条件と関連づけて農業の地域区分をとらえるとともに、現代世界の農林水産業の現状と課題を考察する。また、世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。 ----- 【評価の観点】 ①農林水産業に関わる諸事象の規則性、地域的特性などについて理解することができたか。 ②農林水産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめたことを地図化するなど地理的な表現を行うことができたか。まとめたことを多面的・多角的に考察することができたか。 ③農林水産業の変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしたか。
		2節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配は、世界全体をみると著しい偏りがある。飽食や飢餓がみられるのは、それぞれどのような地域だろうか。また、その原因は何だろうか。 ----- 【評価の観点】 ①食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて理解することができたか。 ②食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③食料問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		SDGs 番号 1：貧困をなくそう 2：飢餓をゼロに	
	期 末 考 査	3節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布には、大きな偏りがある。エネルギー・鉱産資源は、どのようにして生活や産業に利用され、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているのだろうか。 ----- 【評価の観点】 ①世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解することができたか。 ②世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、エネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に利用されているか、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		4節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	これまでの資源・エネルギー問題は、限りある資源をどのように利用するかという考え方であった。今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要なのだろうか。 ----- 【評価の観点】 ①これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて理解することができたか。 ②これまでの資源・エネルギー問題の考え方に対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、どのような考え方が必要かについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③資源・エネルギー問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		SDGs 番号 7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに	
3 学期	課 題 考 査	・ 2 学期の復習	・ 冬季課題より出題
	学 年 末 考 査	5 節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業は、さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた。世界の工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているのだろうか。 ----- 【評価の観点】 ①さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解することができたか。 ②さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現することができたか。 ③工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしたか。
		SDGs 番号 9：産業と技術革新の基礎をつくろう	

	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・ 1 年間の復習	・ 春季課題あり ・ 新年度の課題考査の試験範囲になる場合もあり。
--	---	--------------------------------	--------------------------------------

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業の受け方】

- ①私の授業は「アクティブラーニング的な授業」であり，グループで討議等を行います。
- ②授業中は「なぜ？（Why 思考）」を大切にすること。思考停止は授業を受けていないのと同じです。
- ③社会参画していく上で，個々人で地理的諸課題の解決策を考えながら，これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。

【評価について】

- ①知識・技能：定期考査 ②思考・判断・表現：定期考査，プレゼンテーション
- ③主体的に学習に取り組む態度：授業の予習，レポート，パフォーマンス課題

【ノート・プリントの書き方】

ノートは必要ありません。ファイルを準備します。メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり，質問したりすることで，より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り，整理しておきましょう。自分で考えたり，感じたり，疑問に思ったりしたことが大変重要です。

【勉強の進め方】

日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。

鹿児島県立徳之島高等学校シラバス

日本史探究		地理歴史・公民	
履修学科	普通科	履修学年	第2学年
履修単位	2単位	教科書	『詳説 日本史』（山川出版社）
副教材	『新詳 日本史』（浜島書店）『日本史重要語句 Check List』（啓隆社）		
科目目標			
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			
(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			

学期	月	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期	4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立	自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化に着目して、旧石器文化・縄文文化・弥生文化を比較し、共通点と相違点を考察する。 ※身分差・貧富の差の発生 SDGs「10 人や国の不平等をなくそう」に関連	○	○	○
		単元テスト①	既習事項の確認を一問一答形式やR 80 を用いて計る	○	○	○
	5	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代	東アジア諸国との協力・対立関係を整理し、これらの国々との交流が日本の国家形成や生活・文化に与えた影響を考察する。 唐の影響によって、律令体制が確立されたことを理解し、日本と唐の国家体制の共通点や相違点、現代の政治体制との共通点や相違点を考察する。また、藤原氏の台頭に伴う政争や天然痘の流行によって、社会不安が深まった時代であったことを理解し、国内・国際政治の不安定さやコロナ禍による社会不安が深まる現代との共通点を考察させる。	○	○	○
		単元テスト②	既習事項の確認を一問一答形式やR 80 を用いて計る	○	○	○

	6	3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	2で指摘したような社会不安から逃れたいという思いから、鎮護国家の思想が生まれ、仏教文化が発展したことや遷都事業をはじめとする桓武天皇の改革が、政治を刷新させたことを理解する。	○	○	○
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークから出題	○	○	○
	7	1学期の復習				

学期	月	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期	9	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化	藤原北家が政略結婚や他氏排斥によって不動の地位を手に入れたことや東アジア世界との関係の変化により、中国の文化を消化しながら純和風（日本風）の文化が形成されたことを理解する。	○	○	○
	10	3 地方政治の展開と武士 第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	地方政治の変化等により武士が台頭したり、摂関家を排除した天皇親政や院政が成立したりし、平安時代の政治が大きく転換したことを理解する。既習事項を基に、平氏政権の武家的性格と貴族的性格を考察する。	○	○	○
	単元テスト①		既習事項の確認を一問一答形式やR80を用いて計る	○	○	○
	11	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の発展と文化の展開について、東アジア世界の動向と関連付けて理解する。	○	○	○
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークから出題	○	○	○
	12	2学期の復習				

学期	月	単元名（考査範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
3 学 期	1	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭	応仁の乱の前後での国内政治の違いを考察する。また、東アジア諸地域との交流が深まったことを理解し、対明・対朝鮮・対琉球・対蝦夷地との交流の違いを整理する。	○	○	○
	2	3 室町文化 4 戦国大名の登場	南北朝・北山・東山文化の共通点や相違点を考察するとともに、文化の担い手が貴族・武士だけではなく、庶民にまで広がったことを理解する。また、分国を経済的・政治的強国にするために、自分ならそのような施策を行うかを考察し実際に戦国大名が講じた施策と比較する。	○	○	○
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークから出題	○	○	○
	3	3学期の復習				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚もっている。
【評価の対象】 考查、確認テスト、レポート	【評価の対象】 考查、確認テスト、レポート、プレゼンテーション	【評価の対象】 確認テスト、レポート、プレゼンテーション

授業を受けるときの約束事・学習の方法・成績について
1 授業を受けるときの約束事 (1) 授業開始のチャイム前に教材を机の上に準備する。 (2) 授業に必要な道具を忘れた場合は、授業前の休み時間までに直接申し出ること。 (3) 居眠り絶対厳禁。 (4) 板書以外も積極的にメモを取る（帰宅後復習時、テスト前に授業の復元ができるように）。 (5) 歴史事項を覚えるだけではなく、「学んだことから、次の展開を予想する」「過去のことが現代にどのような影響を及ぼしているのか」を「考える」ことを大切にする。 2 学習の方法 (1) 毎時の確認テストで基本事項をしっかりインプットする。 (2) (1)でインプットしたことを基に、「R 8 0」などで歴史事象を表現（説明）できるようする。 3 担当者から 確認テストや考查で結果が出せることが全てではありません。日々の授業の態度や取組を評価していきます。世の中のことに関心をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。表現方法はさまざまです。人前で自分の考えを発表できるようになってほしいところですが、それが苦手であれば、感想やレポートというかたちからスタートしましょう。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
歴史総合	[地理・歴史]

履修学科	総合学科
履修学年	第2学年
履修単位	2単位
教科書	高等学校 新歴史総合 (第一学習社)
副教材	

科目目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習活動	評価の観点		
				①	②	③
1学期	中間考查	第1章 近代化と私たち 1 18世紀のアジアの繁栄	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身につける。	○	○	○
	期末考查	2 工業化の進展と国民国家の建設 3 結びつく世界と日本の開国 4 帝国主義とアジア諸国の変容	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○	○	○
	課題考查	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身につける。	○	○	○
2学期						

3 学 期	中間 考 査	SDG ‘s 番号5・10：ジェンダー平等を実現しよう・人や国の不平等をなくそう ひとりの人間としての権利や自由を奪われた奴隷という存在は、様々な地域で見られる。19世紀から廃止の流れが広がったが差別という形で根強く残っている。このような事例をもとに現代においてどのような差別があり、私たちはどう行動していくべきかを考える。				
		2 経済危機と第二次世界大戦	・第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	○	○	○
		SDG ‘s 番号16：平和と公正をすべての人に 何らかの事情（政変，戦争，飢餓，疫病など）で生まれ育った国を離れて生活する移民について理解させる。ユダヤ人，南部イタリアの人々，日系移民，中国系移民の歴史から移民が移住先に求めたことを考察させる。また，今後増えていくであろう外国の人々といかに共生していくか考えさせる。				
	期末 考 査	3 第二次世界大戦後の世界と日本	・第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し，表現する。	○	○	○
	学 年 末 考 査	第3章 グローバル化と私たち	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国，冷戦下の地域紛争，先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理などを基に国際政治の変容を理解する。 ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携，計画経済とその波及，日本の高度経済成長などを基に，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	○	○	○
		1 冷戦と植民地化・第三世界の台頭 2 世界秩序の変容と日本	・持続可能な社会の実現を視野に入れ，自ら主題を設定し，歴史的経緯を踏まえて，現代的な諸課題を理解する。 ・世界遺産に登録されている鹿児島県内の歴史的建造物や自然について，その世界遺産が持つ意義を調べ，歴史総合で学んだ内容との関連を意識して発表（プレゼンテーション）を行う。	○	○	○

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。 【評価の対象】 単元テスト、考査、発表など	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。 【評価の対象】 単元テスト、考査、発表など	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身につけている。 【評価の対象】 単元テスト、考査、発表など
担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）		
1 授業には集中して臨みましょう。授業者の発言もノートにメモを取りましょう。 2 主体的に学習に取り組む態度は様々な方法で評価されます。発表や課題の提出などに主体的に取り組みましょう。 3 授業中は「なぜ？」を大切にすること。思考停止は授業を受けていないのと同じですよ。		

鹿児島県立徳之島高校シラバス			科目目標
現代社会		[公民]	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
履修学科	総合学科		
履修学年	第3学年		
履修単位	2単位		
教科書	「高等学校 改訂版 新現代社会」(第一学習社)		
副教材	「改訂版 新現代社会ノート」(第一学習社) 「ライブ! 2022 公共, 現代社会を考える」(帝国書院)		

学期	考査	単元名(考査範囲)	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1 学期	単元テスト	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 1 経済と私たちの経済 2 経済体制の変容	経済の発展によって、社会はどのように変化したかについて理解する。	○	○	○	○
	期末考査	3 現代の企業 4 市場のしくみ 5 国民所得と私たちの生活 6 景気の変動と物価の動き 7 財政のしくみと税金 8 日本の財政の課題 9 金融機関のはたらき 10・11 戦後日本経済あゆみ	・企業の活動, 株式会社のしくみ, 企業の負っている社会的責任について理解する。 ・政府の経済的役割とその見直し, 社会資本の整備について理解する。 ・金融のしくみ, 財政政策, 租税と公債について理解する。 ・高度成長からバブル崩壊後までの日本経済の歩みについて理解する。	○	○	○	○
2 学期	中間考査	12 技術革新の進展と産業構造の変化 13 中小企業と産業の変化 14 食の安全とこれからの日本農業 15 雇用と労働	技術革新による産業構造の変化や現代企業の変貌, 市場の寡占化の問題を理解する。	○	○	○	○
	期末考査	16 労働環境の整備 17 公害の防止から環境保全へ 18 消費者問題と消費者主権 19 社会保障と福祉社会 ※日本の社会保障について SDGs「1 貧困をなくそう」, 「すべての人に健康と福祉を」に関連	・現代の経済社会で、環境・労働・社会保障が重要な課題となっていることを理解させ、社会の構成員としての役割について考えさせる。	○	○	○	○

3 学 期	卒業 考 査	第6章 国際経済の動向と日本の役割 第7章 民主社会に生きる倫理	・国際経済格差の歴史的背景について理解する。 ・発展途上国の経済的な自立と持続可能な発展、先進国の協力のあり方について考える。	○	○	○	○
	※	学年末考査が終了した後の授業内容	1年間の復習				

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用 of 技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識するべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
・現代社会に対する関心を高め、日本と他の国々との同異点を意欲的に追究するとともに、多角的かつ柔軟な見方で広い視野から日本の動き、世界の動きを捉えている。 ・自らの生き方、人生について積極的に考察している。 【評価の対象】 授業態度・取り組み	・政治、経済、社会、文化、生活などさまざまな観点から、国内外の諸事象を捉え、その意義を公正に判断している。 ・資料に基づいて追究し、考察した過程や結果を、適切に表現できる。 【評価の対象】 レポート、宿題・課題	・教科書等に記載されている諸資料を、客観性や公正さにも配慮した上で取捨選択して活用している。 【評価の対象】 レポート、定期考査	・戦後日本の政治・経済の流れを、国際的な枠組みの中に位置づけながら理解している。 ・政治、経済、社会、文化、生活など様々な観点から日本社会の変化を理解し、その基本的知識を身に付けている。 【評価の対象】 定期考査、宿題・課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【授業態度の評価】補足 世の中のことに関心をもって「考える」こと、考えたことを「表現する」ことを重視します。 【ノート・プリントの書き方】 授業のたびにしっかり書き、常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きをしても、知識は身に付きません。また、板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。 【勉強の進め方】 日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し、不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて、確認しましょう。 問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば、友達に聞いたり、先生に質問したりしてください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
現代社会	[公民]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	文系3単位 理系2単位
教科書	新現代社会 (第一学習社)
副教材	ライブ 2023 公共・現代社会を考える (帝国書院)

科目目標
人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

学期	考查	単元名 (考查範囲)	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	中間考查	第1編 現代に生きる私たちの課題 第1編 現代に生きる私たちの課題 [テーマ1] 第1章 地球環境を考える 地球環境問題、地球環境問題への取り組み [テーマ2] 第3章 科学技術の発達と生命 科学技術の発達と生命倫理、脳死と臓器移植	・現代社会の諸問題について様々な観点から、迫及する学習を通して主体的な思考力を養う ・身近な地球環境問題のひとつとして、温暖化を取り上げ、課題学習を行う。 ・図書館・インターネットなどを利用した調べ学習を行い、その成果をプレゼンテーションとして発表させる。 ・生命科学や医学の進歩と人間の生と死の問題を考えさせる課題学習を行う。 ・脳死問題についてグループによる調べ学習と集団討論を基に、脳死臓器移植の是非をめぐるディベートを行う。	○		○	○
		SDG's ③ すべての人に健康と福祉をについて考える SDG's ⑩ 働きがいも経済成長もについて考える					
	期末考查	第2編 現代の社会生活と青年 第1章 現代社会の特質 [テーマ3] 第1節 大衆化社会 [テーマ4] 第3節 高度情報化社会 第2章 青年期の意義と課題 生涯における青年期の意義、青年期と自己形成の課題、学ぶことの意義、職業生活と社会参加、現代社会と青年の生き方	・現代社会の多様な問題を理解させるとともに青年としての自己との関わりを考えさせる。 ・大量生産－消費社会と巨大組織を特質とする現代社会の大衆化の問題を考えさせる。 ・マスコミが作り出す画一的な文化状況の中で個性と主体性の確立の大切さを自覚させる。 ・コンピュータやネットワークの発達が現代社会に及ぼす影響を理解させる。 ・情報の主体的な選択の能力を養うとともに、情報モラルの確立の重要性を自覚させる。 ・心理的－社会的な自立の時期である青年期の意義を自覚と主体的な生き方の探求をめざす。 ・職業選択や社会参加の意義を考えさせ、自己と社会との関わりを自覚させる。	○	○	○	○
2学期	課題考查	・1学期の復習	・夏季課題より出題	○	○		○

3 学 期	中間 考 査	第3編 現代の経済社会と経済活動 第1章 現代の経済社会と政府の役割 技術革新と社会の変化、現代の市場と企業のはたらき、国民所得と景気変動、金融機関のはたらき、政府の役割と租税 第2章 経済活動のあり方と国民福祉 日本経済の歩みと産業構造の変化、中小企業と農業、公害防止と環境保全、消費者問題、労働問題と雇用の動向、社会保障の充実	・現代社会における企業や政府の働き、労働問題、公害と環境保全について理解させる。 ・技術革新による産業構造の変化や現代企業の変貌、市場の寡占化の問題を理解させる。 ・バブル崩壊と金融、日銀や政府の役割や働きを理解させ、租税の意義を考えさせる。 ・高度成長からバブル崩壊後までの日本経済の歩みを理解させる。 ・現代の経済社会では、環境・労働・社会保障が重要な課題となっていることを理解させる。	○	○	○	○
	期末 考 査	第4編 現代の民主政治と民主社会 第1章 現代の国家と民主政治 基本的人権の保障と法の支配、国民主権と議会制民主主義、現代世界の政治制度 第2章 日本国憲法と国民生活 日本国憲法の成立、平和主義、基本的人権の保障、人権のひろがり、政治機構と国民生活、地方自治と住民福祉、選挙と政党、21世紀の政治参加	・民主社会の基本原則を理解させ、民主社会で主体的に生きることを意味を考えさせる。 ・人権保障、国民主権、権力分立等の原則を理解させ、各国の政治制度の特質を考えさせる。 ・日本国憲法の基本原則を、平和主義、基本的人権の保障、政治機構に即して理解させる。 ・平和主義については、日本の防衛政策や安全保障の現状を正確に理解させる。 ・人権保障では新しい人権、政治機構でもオンブズマン・参審制などの意義も理解させる。	○	○	○	○
	課題 考 査			○	○		○
	卒業 考 査	第3章 民主社会の倫理 生命の尊重、人間の尊厳と平等、自由と権利、責任と義務、民主社会に生きる倫理 第5編 国際社会の動向と日本の役割 第1章 国際社会の動向 国際社会と国際法の意義、国際組織の役割、国際政治の動向、人権保障と人種・民族問題、核兵器と軍縮問題 第2章 国際経済の問題と日本の役割 国際経済の動向、貿易の拡大と経済摩擦、南北問題、人類の連帯と日本の役割	・民主社会を支える倫理の基本原則を理解させ自らの在り方生き方を考えさせる。 ・権威主義的パーソナリティの特質を理解させ民主主義の倫理の意味を考えさせる。 ・冷戦終結後の国際社会の動きを理解させ、国際政治や国際経済の現状と課題を考えさせる。 ・国際社会、国際法の意義を理解させ、国連の役割と課題を考えさせる。 ・戦後の国際政治の動向を概観し、現代の地域紛争・人権問題・軍縮問題を理解させる。 ・社会主義経済の変容と市場経済の優位、地域・統合の現状を理解させる。 ・貿易の拡大と経済摩擦、南北問題・南南問題の現状を理解させ、日本の役割を考えさせる。	○	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習		○			○

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用 of 技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
・現代社会に対する関心を高め、日本と他の国々との同異点を意欲的に追求するとともに、多角的かつ柔軟な見方で広い視野から日本の動き、世界の動きをとらえている。 ・自らの生き方、人生について積極的に考察する。 【評価の対象】 授業態度・取り組み	・20 世紀の世界史の中に日本を位置づけて考察する。 ・政治、経済、社会、文化、生活などさまざまな観点から、国内・国外の諸事象をとらえ、その意義を公正に判断する。 ・資料に基づいて追求し考察した過程や結果を、適切に表現する。 【評価の対象】 レポート、宿題・課題	・教科書等に記載されている諸資料を、客観性や公正さにも配慮した上で取捨選択して活用する。 【評価の対象】 レポート、定期考査	・戦後日本の政治・経済の流れを、国際的な枠組みの中に位置づけながら理解する。 ・政治、経済、社会、文化、生活など様々な観点から日本社会の変化を理解し、その基本的知識を身につけている。 【評価の対象】 定期考査、宿題・課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【授業態度の評価】補足 寝ていたら起こします。何度も起こすのに起きない場合は授業に参加する意思がないものとみなして減点します。場合によっては、欠席とします。 同様に、私語についての指導を何回も受けた場合も減点の対象とします。 逆に、授業内容に則した積極的な質問や発表は加点の対象とします。 【出席の状況】 欠課した分を減点します。しかし、部活動の大会や生徒会の活動による公欠やインフルエンザ等での出席停止では減点しません。また、事故や病気による長期欠席については考慮します。 【ノート・プリントの書き方】 授業のたびにしっかり書き、常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。 板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。 【勉強の進め方】 日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し、不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて、確認しましょう。 問題集の該当箇所の問題も自分で解けるように学習を進めてください。もし分からないところがあれば、友達に聞いたり、先生に質問したりしてください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
世界史B（3年）	〔地理歴史〕

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	文系・理系：3単位
教科書	詳説 世界史（山川出版社）
副教材	グローバルワイド最新世界史図表 世界史 Check List

科目目標
世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

学期	考查	単元名（考查範囲）	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	中間考查まで	アジア諸地域の繁栄	明王朝、清王朝 ティムール朝、オスマン帝国 サファヴィー朝、ムガル帝国	○	○	○	○
	期末考查まで	近世ヨーロッパ世界の形成 近世ヨーロッパ世界の展開	大航海時代、ルネサンス 宗教改革、主権国家体制の形成 重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ世界の海外進出 17～18世紀のヨーロッパ文化	○	○	○	○
	課題考查まで	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の形成 欧米における近代国民国家の発展	産業革命 アメリカ合衆国の独立 フランス革命とナポレオン ウィーン体制の成立と崩壊 南北アメリカの発展	○	○	○	○
2学期	中間考查まで	アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動	オスマン帝国支配の動揺と西アジアの変容 南アジア・東南アジアの植民地化 インドの植民地化・アヘン戦争 帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動	○	○	○	○
	期末考查まで	二つの世界大戦	第一次世界大戦 戦間期の世界 第二次世界大戦	○	○	○	○
SDG's ⑩ 人や国の不平等をなくそうについて考える							
SDG's ① 貧困をなくそうについて考える SDG's ③ すべての人に健康と福祉をについて考える							

3 学期	卒業 者 査 査 まで	冷戦と第三世界 現在の世界	国際連合の成立 東西冷戦の始まり キューバ危機と第三世界の台頭、 ヴェトナム戦争、新冷戦の時代、冷 戦の終結と東欧の革命	○	○	○	○
---------	-------------------------	----------------------	--	---	---	---	---

【評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用の技能 ④知識・理解】

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
世界史上の事件・出来事や人物についての関心を高め、世界と日本の相互的な視野から問題を捉えている。 また、近現代の歴史から様々な現代の事象を捉えることができる。 《評価の対象》 ノートや課題等の提出、授業中の取り組み状況により評価する。	・歴史的事象に対する考察、思考力を高め、問題解決に向けた論理的な判断ができている。 ・プレゼンテーションを通じて他者に自分の意見を発表できる。 《評価の対象》 授業中のプレゼンテーションや考查を通じて評価する。	・基本的な資料を読み込み、内容を理解できる技能をもっている。 ・有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する技能をもっている。 《評価方法》 授業や考查での資料問題の読み解きで評価する。	・歴史的基本事項を理解している。 ・理解した事項をもとに新たに知識を習得する能力をもっている。 《評価方法》 考查や小テストにより、知識や理解度を評価する。

授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた
1 居眠りは厳禁である。 2 板書以外も積極的にメモを取る（帰宅後復習時、テスト前に授業の復元ができるように）。 3 私語はしない。 4 授業に必要な道具を忘れた場合は、授業前の休み時間までに直接申し出ること（こうすることで貸与・再配布ができる）。授業直前または申し出をしなくて発覚した場合は減点とする。 5 授業のあった日に1日10分で良いので授業内容の復習を行う。 6 土日に1週間分の授業内容の復習をする。 7 余裕のある人は教科書を事前に読む。 8 定期考查の成績を中心に、課題考查、課題の提出状況、授業中の様子（道具の忘れ、取組状況等）を総合的に判断して成績をつける。 9 考查後の訂正はプラス評価として処理する。このノートで考查点数の補充になる。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地理A	[地歴]

科目目標
現代世界の地理的な諸課題を、地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

履修学科	総合学科
履修学年	第3学年
履修単位	2単位
教科書	「高等学校 新版 地理A －世界に目を向け、地域を学ぶ」 (第一学習社) 「地歴高等地図 －現代世界とその歴史的背景－」(帝国書院)
副教材	授業用プリントを使用

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1 学期	中間考査	第1編 生物の特徴 1章 球面上の世界と地図 2章 グローバル化する現代世界	・地球という球面でとらえる世界を学ぶ ・地図・図法を使って世界の中の日本の位置を学ぶ ・国家とは何かについて学ぶ	○		○	○
	期末考査	3章 多様化する世界の人々の活動 第2編 1章 世界の人々を取りまく環境 SDGs 番号 12：つくる責任使う責任	・身近な消費生活、余暇活動や地理的空間の変化について理解する。 ・人々の生活様式の差異を、地理的環境との関わりから学ぶ	○	○	○	○
2 学期	中間考査	・世界の気候 2章 世界の諸地域の生活・文化と環境	・世界の自然環境を地形と気候の面から大きくとらえ学ぶ	○	○	○	○
	期末考査	3章 近隣諸国の生活	・日本の近隣諸国の産業や生活・文化は、長い歴史や自然環境に影響を受けていることを学ぶ	○	○	○	○
	卒業考査	第3編 1章 さまざまな地域から見た地球的課題 SDGs 番号 1：貧困をなくそう 2：飢餓をゼロに 10：人や国の不平等をなくそう 16：平和と公正をすべてのひとに 13：気候変動に具体的な対策を 14：海の豊かさを守ろう 15：陸の豊かさを守ろう	・現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、具体的な事例を通して理解する。人口・食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題	○	○	○	○
	※	※学年末考査が終了した後の授業内容 ・1年間の復習	・春季課題あり ・新年度の課題考査の試験範囲になる場合もあり。	○			○

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意識的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。 【評価方法】 授業態度・取り組み	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを地域性を踏まえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。 【評価方法】 レポート、宿題・課題	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けるとともに、追究した過程や結果を適切に表現する。 【評価方法】 レポート、定期考査	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 【評価方法】 定期考査、宿題・課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）

【授業の受け方】

- ①私の授業は「アクティブラーニング的な授業」であり、グループで討議等を行います。
- ②授業中は「なぜ？（Why 思考）」を大切にすること。思考停止は授業を受けていないのと同じです。
- ③社会参画していく上で、個々人で地理的諸課題の解決策を考えながら、これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。

【評価について】

- ①知識・理解：定期考査
- ②思考・判断：授業中の図・表の読み取り
- ③技能・表現：パフォーマンス課題
- ④関心・意欲・態度：プレゼンテーション

【ノート・プリントの書き方】

ノートは必要ありません。ファイルを準備します。メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り、整理しておきましょう。自分で考えたり、感じたり、疑問に思ったりしたことが大変重要です。

【勉強の進め方】

日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。

【ノート・プリントの書き方】

授業のたびにしっかり書き、常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。

板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。

【地図帳について】

授業では、地図帳を使用し、地形の確認や授業に出てきた国・都市・地方名・地形名（河川・山脈・盆地）などをチェックしていきます。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
地理B	[地歴]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	文系3単位，理系3単位
教科書	「新詳地理B」（帝国書院） 「新詳高等地図」（帝国書院）
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2021 （帝国書院） データブックオブザワールド 2023（二宮書店）

科目目標
1. 自然環境，資源・産業，都市・村落，生活文化の学習を通じて，現代世界を系統地理的な見方，考え方でとらえる方法を身に付ける
2. 地域性を多角的に考察していくことで，世界の諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる見方や方法を身に付ける。
3. 1・2を通して，現代世界・日本の諸課題について，地理的認識を深めさせ，主体的に行動する力や態度を養う。

学期	考査	単元名（考査範囲）	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1学期	中間考査	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 6節 第3次産業 1 第3次産業の発展 2 多様化する観光産業 3 日本の観光産業 7節 世界を結ぶ交通・通信 1 世界の交通網 2 情報と通信の発達 8節 現代世界の貿易と経済圏 1 私たちの生活を支える貿易 2 国際分業の発達と貿易の地域間格差 3 貿易の自由化と経済連携 4 日本の貿易の現状と課題	第3次産業について，その特徴や発展の背景，地域差などをとらえるとともに，世界と日本の観光業の特徴を考察する。 世界を結ぶ交通・通信について，交通機関の種類や特徴をとらえるとともに，通信の発達による世界の一体化と地域差を考察する。 現代世界の貿易と経済圏について，進展する国際分業の現状と課題，貿易の自由化と経済連携の動向を考察する。また，現代世界における日本の貿易の現状と課題を考察する。	○		○	○
	期末考査	3章 人口，村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題 1 世界の人口問題 2 発展途上国の人口問題 3 先進国の人口問題 4 日本の人口問題 3節 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の機能と生活 4節 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 多様な原因をもつ民族・領土問題 3 共生に向けた取り組み 4 日本の領土をめぐる問題と外国人との共生 SDGs 番号 11：住み続けられるまちづくりを	世界の人口について，その分布の特徴や動態，人口構成や人口転換を考察する。 人口問題について，世界の人口問題を大観し，発展途上国と先進国のそれぞれについて，その要因や対策をとらえる。また，日本の人口問題の課題と解決への取り組みを考察する。 村落と都市について，その立地条件や発達の背景，村落や都市がもつ機能と人間生活のかかわりを考察する。 都市・居住問題について，世界の都市・居住問題を大観し，発展途上国と先進国のそれぞれについて，その要因や対策をとらえる。また，日本の都市・居住問題の課題と解決への取り組みを考察する。	○	○	○	○
2学期	課題考査	・1学期の復習	・夏季課題より出題	○	○		○

期学 3	中間 考 査	4章 生活文化、民族・宗教 1節 世界の衣食住 1 世界の衣食住の地域的差異 2 衣食住の世界的な画一化 3 日本の衣食住 2節 民族と宗教 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題 1 世界の民族・領土問題 2 多様な原因をもつ民族・領土問題 3 共生に向けた取り組み 4 日本の領土をめぐる問題と外国人との共生	世界の衣食住について、地域的差異があることに気づくとともに、世界的に画一化が進む現状を考察する。また、日本の衣食住の特徴やその変化を考察する。 民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活とのかかわりについて考察する。 現代世界の国家について、国家と領域・国境のあり方、国家と主権の考え方、さまざまな国家と国家間の関係の課題を考察する。 民族・領土問題について、現代世界の民族・領土問題を大観し、そのおもな原因と共生に向けた取り組みを考察する。また、日本の領土をめぐる問題や日本国内で暮らす外国人との共生の課題を考察する。	○	○	○	○
		SDGs 番号 10：人や国の不平等をなくそう					
	期 末 考 査	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2章 現代世界の諸地域 1節 地域の考察方法 2節 東アジア ○変化に富んだ地形と気候 1 中国の歩みと巨大な人口 2 中国の食生活と農業の変化 3 中国の工業化と巨大市場 4 中国の海外進出 ●人や物で緊密に結びつく日本と中国 5 朝鮮半島の歩みと文化 6 韓国の産業の発展と変化 ●相互理解をめざす日本と韓国 3節 東南アジア モンスーンの影響を受ける自然環境 1 東南アジアの歴史と文化・民族 2 東南アジアの農業とその変化 3 ASEANの結成と工業の発展 4 ASEANの変化と課題 ●ますます身近になる東南アジア 4節 南アジア 三つに分けられる地形とモンスーンの影響を受ける気候 1 南アジアの歩みとヒンドゥー教 2 インドの農業と農村の変化 3 発展するインドの産業と変化 ●関係強化が期待される日本とインド 5節 西アジアと中央アジア 乾燥した大地が広がる二つの地域の自然環境 1 イスラームを中心とした生活文化 2 交易を軸に発達した都市 3 豊かな資源と人々の生活 ●資源と人の交流でつながる日本と西アジア・中央アジア	地域区分の目的と意義を理解し、有用性に気づく。 国・地域ごとの地域区分と考察の方法について理解する。 東アジアについて、形式的な地域区分にもとづき、自然環境、中国の歴史・文化と巨大な人口、農業、工業、中国の海外進出、朝鮮半島の歴史・文化、韓国の産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 東南アジアについて、形式的な地域区分にもとづき、自然環境、歴史と文化・民族、農業、工業、ASEANの変化と課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 南アジアについて、形式的な地域区分にもとづき、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの産業と生活の変化という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、自然環境、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○	○	○	○
期学 3	課 題 考 査	・ 2学期の復習	・ 冬季課題より出題	○	○		○

	学 年 末 考 査	6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 赤道を軸に南北で対照的な二つの地域の気候と植生 1 歴史的な背景によって形成された多様な文化 2 一次産品への依存が強い産業 3 人々の生活の変化とほか地域との結びつき ●新たな関係を模索する日本とアフリカ 7節 ヨーロッパ 高緯度でも温暖な気候と安定した大地 1 ヨーロッパの成り立ち 2 結びつくヨーロッパ 3 ヨーロッパの多様な農業と共通農業政策 4 移り変わるヨーロッパの工業 5 これからのヨーロッパ ●産業と文化で結びつく日本とヨーロッパ 8節 ロシア 広大な国土と多様な自然環境 1 ロシアの歴史と社会の変化 2 大きく変化したロシアの産業 ●日本海をはさんだ隣国である日本とロシア 9節 アングロアメリカ 南北と東西で異なる自然環境 1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 2 アメリカ合衆国の人口と都市 3 世界の農業のかぎをにぎるアメリカ合衆国 4 進展する科学技術と産業 5 世界の中のアメリカ合衆国 6 アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダ ●経済・政治の重要なパートナーであるアメリカ合衆国 10節 ラテンアメリカ 南北と標高で異なる自然環境 1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化 2 大土地所有制と農業の変化 3 鉱産資源を基盤とした工業化と生活の変化 ●歴史的に関係の深い日本とラテンアメリカ 11節 オセアニア 一つの大陸と太平洋の島々 1 オセアニアの移民の歴史と多文化社会 2 資源を通じて強まるアジア諸国との結びつき 3 アジア諸国に輸出される農畜産物 4 物や人の移動で強まるアジアとの結びつき ●物や人の交流	北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目した地域区分にもとづき、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化とほか地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 ヨーロッパについて、形式的な地域区分にもとづき、自然環境、歴史、EUの結びつき、農業、工業、今後の動向という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 ロシアについて、亜寒帯が広がる自然環境に着目した地域区分にもとづき、自然環境、歴史、産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 アングロアメリカについて、文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界に影響のあるアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 ラテンアメリカについて、文化に着目した地域区分にもとづき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事象とほかの事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。 オセアニアについて、形式的な地域区分にもとづき、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつきという特色ある事象とほかの事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。また、日本との結びつきを考察し、地域的特色への理解を深める。	○	○	○	○
--	---	---	---	---	---	---	---

評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③資料活用の技能 ④知識・理解

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1 地理的事象に興味を持ち、地図に積極的に関わろうとしている。 2 世界の諸地域に関心を示し、さまざまな地域に関する事象を自ら調べようとしている。 3 授業での調べ学習に積極的に取り組んでいる。 【評価の対象】 授業態度・取り組み	1 世界の地理的事象が起こる原因について既存の知識を用いながら、考察することができる。 2 地形や気候などの自然現象をもとに、それらが人びとの生活に及ぼす影響を導き出すことができる。 【評価の対象】 レポート、宿題・課題	1 世界の外観をつかみ、世界地図、州、大陸などの略地図を描くことができる。 2 地図を用いさまざまな主題図の作成ができる。 【評価の対象】 レポート、定期考査	1 地形・気候などの基礎的用語を理解している。 2 世界各地域の特色を理解している。 3 世界各地域の結びつきを理解している。 【評価の対象】 定期考査、宿題・課題

担当者から（授業を受けるときの約束事・勉強の仕方・成績のつけかた）
【授業態度の評価】補足 同様に、私語についての指導を何回も受けた場合も減点の対象とします。 逆に、授業内容に則した積極的な質問や発表は加点の対象とします。 【出席の状況】 部活動の大会や生徒会の活動による公欠やインフルエンザ等での出席停止では減点しません。また、事故や病気による長期欠席については考慮します。 【ノート・プリントの書き方】 授業のたびにしっかり書き、常に整理しておきましょう。提出の直前にまとめ書きするようなことは絶対にしてはいけません。 板書事項を写すだけでなく、自分で考えたり感じたりしたこと、疑問に思ったことなどについてのメモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。 【地図帳について】 授業では、地図帳を使用し、地形の確認や授業に出てきた国・都市・地名・地形名（河川・山脈・盆地）などをチェックしていきます。 【勉強の進め方】 日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解し、不足であれば先生に聞いて下さい。例題など自分で解いてみて、確認しましょう。 【授業の受け方】 ①私の授業は「アクティブラーニング的な授業」であり、グループで討議等を行います。 ②授業中は「なぜ？（Why 思考）」を大切にすること。思考停止は授業を受けていないのと同じです。 ③社会参画していく上で、個々人で地理的諸課題の解決策を考えながら、これら問題を解決するために我々自身でできることなど自分ごととして考えていきましょう。 【評価について】 ①知識・技能：定期考査 ②思考・判断・表現：定期考査、プレゼンテーション ③主体的に学習に取り組む態度：レポート、パフォーマンス課題 【ノート・プリントの書き方】 ノートは必要ありません。ファイルを準備します。メモを残しておくことが大切です。授業後に調べたり、質問したりすることで、より確かな知識となります。メモを取りやすいように大きな付箋紙を準備して気になったことはその都度書いて貼り、整理しておきましょう。自分で考えたり、感じたり、疑問に思ったりしたことが大変重要です。 【勉強の進め方】 日々の授業の内容が基本です。必ず復習をして授業の内容を理解してください。

鹿児島県立徳之島高校シラバス	
日本史B	[地歴・公民]

履修学科	普通科
履修学年	第3学年
履修単位	3単位
教科書	「詳説日本史 改訂版」(山川出版社)
副教材	「最新日本史図表」(第一学習社) 「重要語句 Check List」(標準編) (啓隆社)

科目目標
我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

学期	月	単元名	学習内容	評価の観点			
				①	②	③	④
1 学期	4	第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造	戦国時代から織豊政権、徳川幕府への移行を理解させる。	○	○	○	○
	5	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化	江戸幕府の成立から安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察させ、併せて農業・商工業などの発展について理解させる。また、町人文化の形成について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定との関連の中で理解させる。	○	○	○	○
		単元テスト	教科書・授業プリント・ワークより出題				
	6	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が対処した諸改革についての特徴を理解し、欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化や幕府が衰退していく過程を理解させる。化政文化について、学問・思想・美術・生活文化の新たな展開に着目させ、江戸はもとより地方文化の成長にも留意して考察させる。	○	○	○	○
		期末考査	教科書・授業プリント・ワークより出題				
	7・8	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱	幕末・維新期の過程を国際環境の変化に着目して理解させ、幕府の滅亡に至るまでの経過を社会・経済の変化と関連付けて理解させる。	○	○	○	○

2 学 期	9	2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発展 ※戦争の正負両面を捉える活動 SDGs「10 人や国の不平等をなくそう」,「16 平和と公正をすべての人に」に関連	日清・日露戦争の勝利により,日本は列強の仲間入りを果たした一方で,戦争により国民は多大な犠牲を強いられたことや,韓国併合や満州への勢力の拡張などを通じて植民地支配を進めていくなかで,列強から警戒される存在になったという,1つの出来事の正負両面を複数の資料から考察させる。	○	○	○	○
	10	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦	第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について,政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察させる。 第二次世界大戦について,国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ,この戦争が空前的惨禍をもたらした点に着目して,平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識させる。	○	○	○	○
	11	第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	戦後の世界秩序を踏まえ,占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について,その経過と内容を理解させる。	○	○	○	○
	期末考査		教科書・授業プリント・ワークより出題				
	12	第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13条 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の動揺	独立後の日本国内政治について,55年体制の成立から日本の国際社会への復帰,さらには朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について考察させる。 石油危機を乗り越え,経済大国としての道を歩み始めた日本の状況と,冷戦後の日本の政治・外交・経済・生活文化面について理解させ,現在の日本が抱える環境問題やエネルギー問題などの課題とそれに対する日本の役割について考察させる。	○	○	○	○
3 学 期	1	第13条 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の動揺	石油危機を乗り越え,経済大国としての道を歩み始めた日本の状況と,冷戦後の日本の政治・外交・経済・生活文化面について理解させ,現在の日本が抱える環境問題やエネルギー問題などの課題とそれに対する日本の役割について考察させる。	○	○	○	○
	卒業考査		教科書・授業プリント・研究ノートより出題				

評価の視点（生徒が授業や課題に取り組むときに何を意識すべきか）			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
1 歴史的な事象に興味を持ち、歴史に積極的に関わろうとしているか。 2 身近な郷土の歴史に興味・関心を示し、自ら調べようとする態度が養われたか。 【評価の対象】 授業態度・取り組み	1 歴史的な諸事象について、原因・展開・結果を的確に捉え、その歴史的評価を考察することができたか。 2 近代の各時代において、日本国民がどのような生活を送り、文化を育んできたかを思考することができたか。 【評価の対象】 レポート、宿題・課題	1 基礎的な史料を読みこなし、そこから歴史的な事象を読みとることができたか。 2 政治史・社会史・経済史・文化史のそれぞれの分野において、基本的な歴史的な事象についての略年表を作製することができたか。 【評価の対象】 レポート、宿題・課題	1 我が国の歴史について、基本的・発展的な事柄を世界史視野に立って理解し、その知識を身に付けているか。 2 故郷「徳之島」や「奄美」の歴史を、日本史や世界史の中できちんと位置づけて理解できたか。 【評価の対象】 定期考査、宿題・課題

授業を受けるときの約束事・学習の方法・成績について
1 授業を受ける時の約束事 (1) 授業開始のチャイム前に教材を机の上に準備する。 (2) 授業に必要な道具を忘れた場合は、授業前の休み時間までに直接申し出ること。 (3) 居眠り絶対厳禁。私語はしない。 (4) 板書以外も積極的にメモを取る（後日、見直したときに、授業の内容が分かるように）。 (5) 日本史は、史料を読んだり、写真やグラフから歴史事象の原因や影響を読み取ったりすることが重要である。失敗を恐れず、「考察する」・「表現する」ことに積極的に挑戦してほしい。 2 学習の方法 (1) 毎時の授業で、本時の授業内容（要旨）は何だったかをつかむ癖をつける。 (2) 毎時の確認テストで、基本的な用語をしっかりと押さえる。 (3) 史料問題や発展問題で実力を確認する。 3 評価について 定期考査の成績を中心に、課題考査、課題の提出状況、授業中の様子（取組状況等）を総合的に判断して成績をつける。 中間考査+学期末考査（70 点）+平常点（宿題、課題考査）（30 点）＝100 点